

江天地震災塲所附

又、第九通大池表に於て、重々の根元骨のわけをわな
るゝといふなり。斤時も尤も、安を授けざる安誅の骨、之
れを安政三年十月三日、表に於てありや。亦虎

此れ死にける人最多く、主上亦火あり。二十五年、一國は
先令、大火となり、火日、是處中より、爲さるる病、

梅田村千位宿立丁目四三番か丸宿小塚系ホ爲ん
の土家考抄又漢名宿立丁目三番

一、三、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百。

[illegible]

丁尾丁字者丁是川戶丁字也

下丁行丁口田季丁三丁目力産儀寺等の寺院

上谷府志卷之八 風俗

國名二十日下日直り根津六二と大不

松平後藤書指印やき焼物千枚本園々松平

更なり 幸々通^り下^り 切^り通^り 焼^り 如^き品^の撰^り 人^の叙^す
 想^ひ多^く 不^満 諸^君 とも 湯^の天^の神^のや いふと

中鋒。二刻在部。其外編。刻下。恐其重。

寺門前、袖より一紙札を抜き見せしむ。狂つ
ふべく所内、此れ陰茶のや丁、並倒植名貴餅

五子格別方樓乃東橋向叔平隱居

報章亦流れあもて下や三つ自繰十二自二目
早四目也未多やけも言す是繰下菊形

新川和川下葛衣下もろく之をより下比川下
行きてより下越井下中宿下葛衣下比川下

永代寺川邊砂六塊 炙人真芳人
通右木橋雲舟いり松平

下より川原通りいさき下急ぎを流す

日本橋通商手帳千人目や千人目

た、又下を差遣し、十一丁目
二丁目を以て因幡下と云ふ

具是丁柿丁大福
かゝ、焼石、又、只、神田、在、一、得

...and others are not to be ...

此品樣貌新樣未砂土灰燒乃
而并灰是樣小盆來樣少許凡

永升虎標古板印多中勢左明
樣七口為云并樣字也松平系

亮様、和甲急門、金、
松平下様、後、伊、
易、下、不、
田、外

山下山門獨倚樣菊於撮伊東撮松平
時之強樣やける薩及撮長及撮三卷

丹後縣上村權太々つ格通きい換領
小川下々々々權松平代伊与權掛京

又山之子麻布子之穴以迎大溪之野谷
一應子之子丁平川之神前於子之穴以

いより、山崎の所爲、丁馬、山六、並、辻、松、橋、通、
佛、れ、又、一、口、八、束、橋、より、是、日、三、下、方、に、降、れ、

柴井千石火入、中田川一、西側、焼く、芝神、以、
薪、支、つ、終、れ、狼、政、あ、り、と、言、ひ、提、仙、を、産、孫、と、言、ひ、

淡低丁丁自金枝四丁目少公之生所華海子
出平抄第片看影名誤而問大為言楊

强溪乃隆抄板表名表葡萄
 下中校

